

カトリック

広島教区報

No. 60

カトリック
広島司教区
発行責任者
澤野耕司神父
編集者
山口道晴神父
広島市中区鞆町4-42
広島司教区館内
TEL (082) 221-6017

信仰イキイキ 明日の教会

教区代表者会議すでに進行中

教区宣司評で

実行委員会からの報告確認

三月十三日の教区宣教司牧評議会（以下、宣司評）において、三月五日に行われた教区代表者会議実行委員会（以下、実行委員会）からのいくつかの点について要請を受け、審議した。その中で、十一月二十三日の代表者会議が、当初の方針通り小教区やブロックにおいて既に進行していることが確認された。

ガイドライン配布

代表者会議の方向性を示した「ガイドライン」（第三面掲載）を作成し、これを小教区に配布する。

地区のポスター作成

各地区ごとにポスターを作成し、広報の材料として配布することになったが、作成期日については、各地区の状況にあわせる。

地区内の取組状況

各地区の評議委員から地

区における代表者会議に向けての取り組み状況の報告がなされた。そして、取り組みの早さや内容の深さより、各小教区の状況にに応じた、取り組みの過程を大事にする事が再確認された。

さらに、一月から三月までの小教区・地区の取り組みに関するレポートの統一様式を作成して配布するの事で、四月中旬を目標に提出してもらう。

小教区信徒代表

小教区信徒代表が決定されたら、その者に実行委員が直接電話をして、代表者

分かりますが、イエスの姿は見えなくなりました。

「わたしたちの心は燃えていたではないか」と二人の弟子は、復活したイエスと出会った大きな恵みと喜びを仲間の弟子たちに伝えるために、すぐに出発しました。

この二人の弟子の復活体験に、キリスト者と教会のあり方と使命を考えるためのヒントが示されています。
(第二面へ続く)



カトリック広島司教区長 三末篤實 司教

二一世紀の広島教区に

宣教の実りを

二〇〇五年 復活祭の司教メッセージ

「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか。」(ルカ24・31)

会場関係や交通費等会計は、事務局と広島地区が担当すると提案されたが、広島地区に関しては次回の地区宣司評で検討し決定する。

典礼は、各地区二人の担当者を選出し割り当てる。

司祭は、前日に開催される司祭大会に引き続き参加する。



会議の準備等について生の声を聞く。

諸活動分野の代表者

五月末頃までに、若い世代、障害者、外国籍者、外国籍者のサポーター、正義・平和、教育、福祉の各分野から原則として各地区七人（少なくとも女性が三十%入るように）を選出する。

短詩形文学作品募集

代表者会議にちなんで、信仰体験や信仰の歩みに関する短歌、俳句、川柳、詩などを募集する。

代表者会議当日

当日のプログラムは、全体会と分科会とミサによって構成する。

(第一面の続き)

教区代表者会議の意義

二〇〇二年十月の「教区大会」以来、広島教区民は、「平和の使徒」として働く決意を新たにし、「全世界に行つて、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(マルコ16・15)という主イエス・キリストのことばを実現するためにこの地に派遣されていることを、強く意識してきました。

そして今、福音宣教の尊い使命をどのように果たしていけばよいのか、どちらの方へ向つていくのか、より具体的に明確に方向性を打ち出す必要が生じています。そのために、広島教区は今年十一月二十三日に「教区代表者会議」を開きます。「教区代表者会議」をひとこととていえば、一人ひとりの信仰をイキイキさせ、わたしたち教会の明日の福音宣教を考える集いです。

信仰イキイキ

わたしたちは、それぞれ

に神の恵みと導きによってキリスト者の道を歩き始めましたが、わたしたちの日々の生活には、さまざまなことが起こります。

喜びや悲しみ、苦しみや楽しみ、希望や失望、まさに悲喜こもごも。突然襲ってくる災害や予測できない事故など、わたしたちの力では防いだり制御できないこともあります。

キリストを神と信じるわたしたちは、毎日をどのように生きていくのでしょうか。

信仰はわたしたちの人生の光となり力となつていくのでしょうか。

今、もう一度、わたしたち一人ひとりの信仰をイキイキさせるにはどうしたらよいのでしょうか。

復活のイエスよ、あのエマオの二人の弟子に与えられたように、わたしたちにも「燃える心」をお恵みください。

わたしたち教会

教会は「神の民」です。神は羊飼いであり、わたしたちは羊の群れです。神

は、人類を個人としてではなく、共同体として救うために、「キリストの身体」としての教会をたてられました。

教会は、「わたしたちの教会」ですが、それ以上に、「わたしたちが教会」です。

教会を外から傍観者として見るのではなく、「わたしたちが教会」であることを、もつと強く意識したいものです。

偉大な宣教師聖パウロの教えを思い出しましょう。

「あなたがたは、キリストの身体であり、また一人一人はその部分です」(1コリ12・27)

「すべての人を一つにしてください」(ヨハネ17・21)と父なる神に祈られた主よ、広島教区をみ心にかなう信仰共同体としてください。

明日の教会

救いのわざを全うし天に昇られた主イエスは、世の終りまで信仰の遺産を継承していく使命を教会に与え

られました。

わたしたち広島教区も「代表者会議」を開くことによつて、五年後、十年後の教区の姿を見据え、具体的な方向性を探りたいと願つていきます。広島教区の使命である「平和の使徒として働く」ことを中心にして、信徒・修道者・司祭・司教が心を一つにして、「基本方針と優先課題」を確かめたいのです。

わたしたちは、教区民二万人の「小さな群れ」であり、課題は山積しています。

しかし、教会は、本質的に神のわざです。ご自分の教会を成長させてくださる神に信頼して、わたしたちが受け継いだ信仰の遺産を、この地方の明日の教会へ継承していく責任を果たしていきましょう。

「小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。」(ルカ12・32)と約束された主イエスよ、二十一世紀の広島教区に宣教の実りを豊かにお与えください。

広島 殉教祈念祭に百五十人



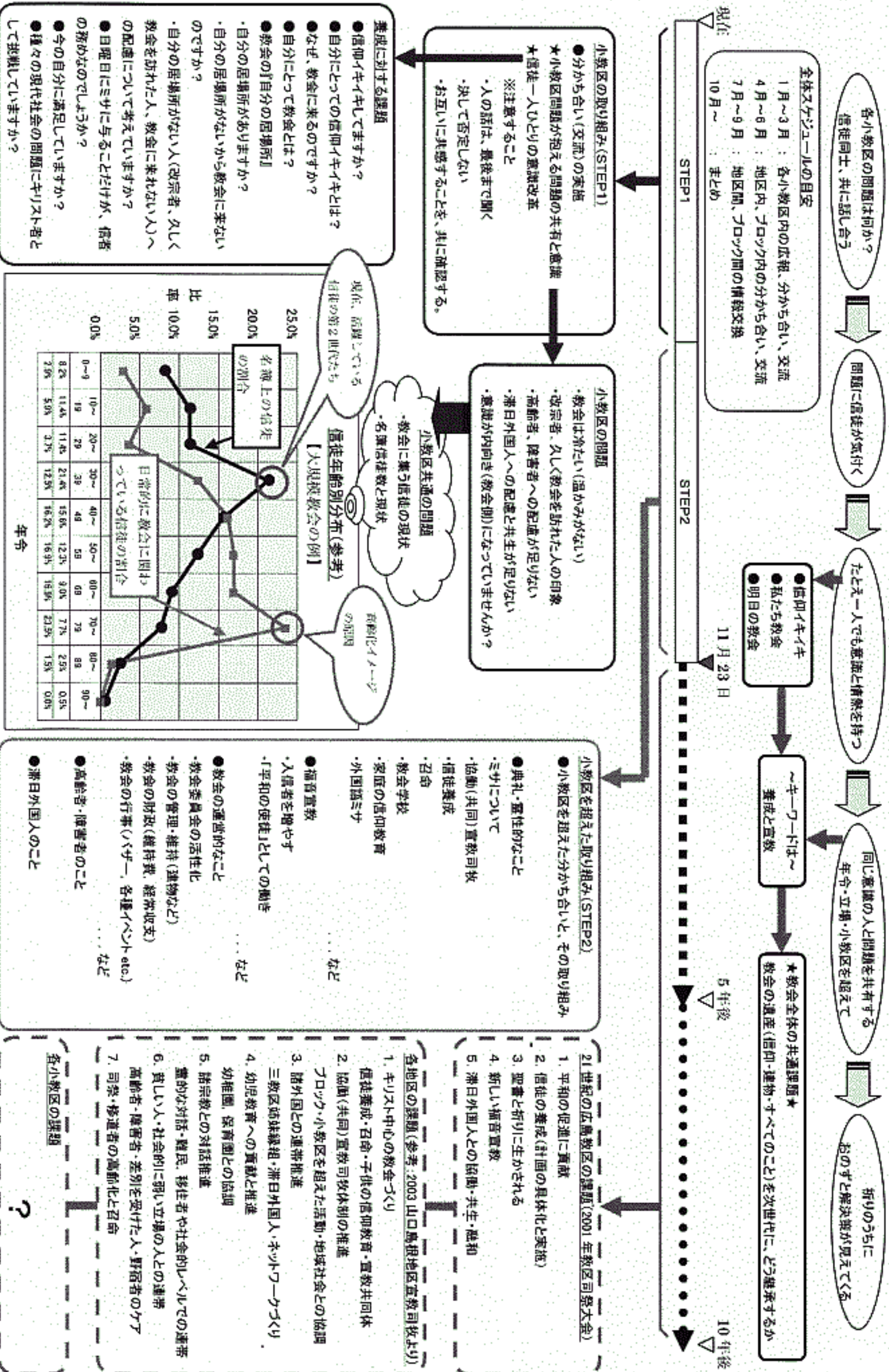
広島市内己斐東の殉教碑前で

二月十一日、第二十二回広島キリシタン殉教祈念祭が、キリシタン殉教碑と観音町教会で行われた。午前十時、碑の前で三末篤實司教の先導によつて殉教者の列福を求める祈りを捧げ、教会まで徒歩巡礼。祈念ミサ後の溝部 脩司司教の講話では、「日本二十六聖人と現代の教会」と言うテーマで、「なぜ迫害と殉教が起こったのか」と言うことが史実に基づいて解説され、その根底にある問題点が鋭く分析された。

2005年広島教区代表者会議に向けて

教区代表者会議実行委員会 公認資料№02

— 信仰イキイキ 明日の教会 —



台風の手を受けた

姉妹教区訪問

昨年十一月台風の被害を受けた姉妹教区のインフアンタへ、三人の司祭と青年一人が義援金を持って現地を訪れた。以下はその報告である。

マニラからインフアンタに近づくにつれ崖崩れなどが多く見られ、水田は土砂で埋まって復旧には何年もかかりそうであった。ジェネラルナルカルのカルメルスクールは、川の氾濫により木造校舎は跡形もなく流され、近くの替地での授業再開を計画中だった。教区召命の日の集いで集められた義援金一千ドルをお渡しする。インフアンタの方は一階部分に土砂が流れ込み、図書室の本はすべて水浸しの状態であった。カテドラルの広い庭と公営のバスケットコートは被災者への物資受け渡し場所となっており、数百人の人々が列をなして食糧などを受け取っていた。

鉄砲水で危険にさらされている住民をいち早く避難



救援物資を持ち帰る人たち

させるために活躍していたチャール神父は濁流に呑み込まれて亡くなり、神父と行動を共にしていた青年は神父の気転で助かった。この青年は犠牲となった神父の意思を継いで神学校に進みたいと話している。テイローナ司教様会って三末司教様からの手紙と義援金をお渡しする。

マニラに着いたとき、淳心会の神父様から「ここ数年続けて台風被害が起きているのは、単に台風による大雨の災害ではなく、無秩序な木材伐採が招いた人災である。そこで司教様方は中央政府・地方政府・NGOの代表者などを招いて、人災を繰り返さないためにどうすべきかを話し合う動きをされているとのこと。私たちもこの面での協力が必要であろうと思われる。

平和行事

教皇来広二十四周年を

記念して

二月二十日、カテドラルで、教皇来広を記念して、三末篤實司教司式により平和祈願ミサが捧げられ、午前零時廿日市教会を出発しカテドラルまで徹夜で徒歩巡礼をした人を含めて、約四百人の人々が「平和のた

めに働く決意を新たにすることが出来ますように」と祈った。

引き続き、一人芝居「花いちもんめ」が土屋時子さ



熱演する土屋時子さん

んによって上演された。各場面を盛り上げるような効果音をバックにしての熱のこもった演技に、観客は身動きもせず聞き入っていた。二月二十五日は、平和公園で祈りを捧げた後、世界平和記念聖堂の地下聖堂での司教・司祭共同司式ミサに、百五十名が参加した。「平和」から日々遠ざかっていくような中で「平和の君キリスト」に一層強く祈り続けたいものである。

希望といのちへの道

—ヒロシマ・ナカサキに

平和を学ぶ—

イスラエル—パレスチナ—日本



イタリアで交流したイスラエル・パレスチナのこどもたち (2003年)

被爆六十周年を迎える広島・長崎で、紛争に苦しむイスラエル・パレスチナ双方の高校生・日本の高校生十八名が「出会いと対話」を通して、平和と和解の道を探るというプロジェクトが広島・長崎両教区を含む実行委員会によって進められている。

この計画の発案者イブラヒム・ファルタス神父（エルサレム・カトリック教会主任）が、二〇〇三年広島を訪れたとき「紛争のために出会うことすら出来ない聖地の若者たちに、この地

《平和をつくる子ども》
交流プロジェクト

金祝・銀祝

おめでとーございます!!
 六月十九日の三末篤實司
 教叙階のお祝と合わせて金
 祝・銀祝の祝が行われま
 す。本年はシスターのみで
 す。山口教会にて開催。

《金祝》

修道女会 Sr.石井彌栄子

帰天

ヨハネ・マリア・ヴィアンネ
 鹿江 正信 神父

(広島教区司祭)



帰天

マルセル・ペック 神父

(淳心会司祭)



修道女会

〃

宣教修道女会

〃

援助修道会

〃

《銀祝》

長崎純心聖母会

Sr.高林和子

Sr.小田程子

Sr.岡倉美千代

Sr.鈴木慶子

Sr.栗本晃子

Sr.柳川鈴子

Sr.山下静子

二月十七日小野田市立病
 院で急性呼吸不全のために
 逝去。享年七十二歳。三二
 年大連(中国)生まれ、五
 二年岩国教会で受洗。六六
 年に広島教区司教座聖堂で
 司祭叙階後、祇園、幟町、
 呉、福山、廿日市の各教会
 で司牧活動を行い、九九年
 より司教館付司祭として過
 していた。十九日葬儀ミサ
 (司教座聖堂)。

一月二十日姫路市のツカ
 ザキ記念病院で急性心不全
 のために逝去。享年八十二
 歳。二二年ベルギー国生ま
 れ、四二年淳心会入会、四
 八年司祭叙階、五〇年来
 日。姫路、須磨、玉島、等
 岡の各教会を歴任し、姫路
 賢明女子学院講師、長崎カ
 トリック小神学院院長、ノ
 ートルダム清心女子大学講
 師を務めた。

司祭人事異動 (異動時期はいずれも4月から)

(イエズス会関係) (カッコ内は旧職)	
住田省悟神父	イエズス会管区長として教区外へ(山口・島根地区長)
佐々木良晴神父	山口・島根地区長(周南チームミニストリー・モデラートル)
山根敏身神父	山口教会主任(教区外から)
松村信也神父	山口教会助任・地区長補佐(周南チームミニストリーメンバー)
ヴィタリ神父	周南チームミニストリー・モデラートル・徳山教会および下松教会担当・徳山教会在(山口教会主任)
オレギ神父	周南チームミニストリーメンバー・徳山教会在(防府教会主任)
父路門神父	防府教会主任(宇部・小野田チームミニストリー・メンバー)
三喜田虎太神父	宇部・小野田チームミニストリー・メンバー・宇部教会在(山口教会助任・周南チームミニストリー・メンバー・柳井教会担当)
アルティリヨ神父	柳井教会担当を兼務
泉類治神父	徳山教会在(下松教会在)
貝瀬健一神父	教区外へ(山口レジデンス)
(淳心会関係)	
ムツシェ神父	倉敷地域共同宣教司牧モデラートル・倉敷教会在(倉敷地域共同宣教司牧・水島教会在)
ジェリー神父	岡山教会共同宣教司牧チームメンバー(岡山教会協力)
レネ神父	倉敷地域共同宣教司牧・倉敷教会在(岡山教会共同宣教司牧チームメンバー)
ギャリー神父	福山教会助任(松江教会助任)
(教区司祭関係)	
早副嶺神父	聖園子供の家園長・岡山教会協力(福山教会主任)
長谷川儀神父	廿日市教会主任(呉教会主任)
深堀升治神父	呉教会主任・呉聖園マリア園園長(幟町教会主任)
野崎一夫神父	鳥取教会主任(廿日市教会主任)
澤野耕司神父	幟町教会主任(翠町教会主任)
西江和司神父	教区本部事務局長・教区会計・翠町教会担当(倉敷地域共同宣教司牧)
服部大介神父	福山教会主任・聖園幼稚園園長(教区本部事務局長・教区会計・三篠教会担当)
瀧井英昭神父	米子聖園マリア園園長兼務
肥塚倅司神父	三篠教会担当兼務

広島司教区行事および司教予定表	
4月	5日祝 司教顧問会議 14:00
	24日祝 援助修道会日本創立70周年記念ミサ (於:三篠教会) 9:00
	29日祝 山口教会公式訪問・聖信式ミサ 10:00
	3日祝 乙女峠まつり 10:00
	8日祝 岡山教会 公式訪問・聖信式ミサ
5月	10日祝 司教顧問会議 14:00
	15日祝 聖霊降臨の主日 幟町教会 公式訪問・聖信式ミサ 9:30
	22日祝 小野田北若山教会公式訪問 9:00
	27日祝 女性連合総会 (於:幟町教会) 10:00
	5日祝 尾道清心幼稚園50周年記念式典 (於:しまみ会館) 13:00
	6日祝~11日祝 教区司祭懇話会 (於:神福)
	12日祝 宗岡教会 公式訪問・聖信式ミサ 9:30
6月	13日祝~17日祝 定例司教総会
	19日祝 司教叙階記念と金銀祝(山口教会)
	21日祝 司教顧問会議 16:00
	22日祝 教区司祭評議会 10:00
	26日祝 柳井教会 公式訪問 11:00
	3日祝 伯雲ブロック3教会合同行事 (於:松徳学院)
	10日祝 岡山教会 公式訪問・聖信式ミサ 9:00
	12日祝 司教顧問会議 14:00
7月	24日祝 倉敷教会 公式訪問・聖信式ミサ 9:30
	25日祝 大阪教会管区代表者会議 11:00~16:00(於:大阪カテドラル)
	31日祝 宇部教会 公式訪問・聖信式・集會司式者聖体奉仕者任命式 9:00 (前日、信徒交流会 18:00)
	5日祝~6日祝 平和行事
	7日祝 元教会 公式訪問 9:00
	8日祝~10日祝 長崎平和巡礼(被爆60周年記念)
	15日祝 聖母の被昇天の祝日ミサ (カテドラル) 10:00
8月	25日祝~27日祝 教区練成会 (於:岡山)
	28日祝 岩国教会 聖堂献堂記念日 9:00

新園舎完成!!

広島・翠町

広島マリア幼稚園

三月十二日、広島マリア幼稚園で新園舎の落成式・祝別式が三末篤實司教の司



式によって、行われた。

広島マリア幼稚園は、イエズス会師サベリオ神父によつて建てられ、今年創立四十周年を迎えていた。

当初は保育管理を福音の光修道会に委託し、その後七十六年から九十五年まで汚れなきマリアのクラレチアン会に委託していた。九三年には学校法人広島信望愛学園の幼稚園となった。新園舎は、旧司祭館と旧信徒館を壊し、その上に建てられ、広い運動場を持つ南向きの明るい一階建てと

なった。落成式前日には、在園児によつて白モクレンの記念樹が植えられた。

下松

暁の星幼稚園

三月十九日は学校法人信望愛学園下松暁の星幼稚園再築落成式でした。この為心血を注がれたマヌエル・ギリエン神父様が病没なざり悲嘆に…。理事長ヴィタリ・ドメニコ神父様とシスター田中園長のご努力を得て感謝の一語です。一九七一年開園、初代園長故松宮司神父様と法人創者故ドラペリエール神父様二代園長とで基礎も固まり職員、保

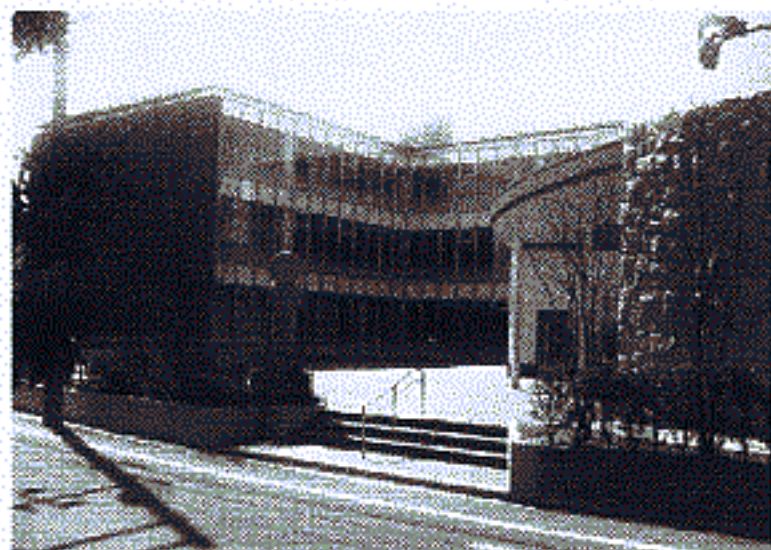


護者の人信にも恵まれました。以来次々と受け継がれた園長方、ご協力の方々に感謝を深めます。これからも園が聖心に支えられ、職員一同は勿論、多くの方々のお祈りとお力によつて、主と切望しております。

「祈り、分ち合い、さあ沖へ。」

岡山カトリック教会 湯原千陽

岡山教会では、2004年12月23日に岡山カトリックセンターの落成を祝い、教会の新しい交わりの中庭を挟んで聖堂と対面する大ホールは主日にはミサ後、信徒司祭がお茶とお菓子で自然に集い、温かい交わりの中庭となっています。通りに面し



た「ディエゴプラザ」は、書籍、聖具の販売のほか、週日は案内・談話コーナーとして開放し、奉仕者が教会を訪れた方とゆっくり対話をしています。また、施設内シャワールームをホームレスの方々に提供してはという話があがっています。長い討議の末承認されたものの、衛生管理面の問題の他、戸惑いを感じている方もあり、現在は実現に向け実際に提供を行っている他教会を見学するなど具体策を検討している段階です。教会は誰のために開かれたものであるのかを問われる思いです。目に見える建物と共に、これから私達が築いていく目に見えない建物（信仰共同体）を通じて、世の人々、苦しむ人々と福音の喜びを分ち合っていく場となりますように。

信者養成への取り組み

山口島根地区

九五年に、信徒の委員の一人が宣教司牧評議会、地区で信徒養成を計画的に進めることを提案。その後、地区長のもとに信徒養成準備委員会設置。養成計画実施を推進するにあたり、信徒の意識調査、アンケートの実施、結果報告と養成計画説明のため、司祭と委員がチームを組み、地区内全小教区を二回訪問。九八年、宗像の黙想の家を会場に「第一回信徒養成研修会」実施。同時に準備委員会は信徒養成小委員会に移行。第二回目からは、司祭・修道者・信徒が信者として共に学ぶというところで「信者養成研修会」に、委員会名も「信者」に改称。宗像では、「みことばの分かち合い(七ステップ)」と「みことばの祭儀」、アシパ・プログラムや教会について学ぶことにより、信者の基礎づくりになっている。今までに約二百名参加。現在、〇五年度第八期生を募集中。

教区神学生の動向



ヤン神学生

人が東京カトリック神学院に入学した。



ヤン神学生

人が東京カトリック神学院に入学した。

廣島教区司祭大会を終えて(2)
Sr.春日圭子

三月二十三日、司教座聖堂で、広島教区の蔵主(くちから)から)神学生(松江教会出身)の司祭・助祭候補者認定式が行われた。四年後に司祭叙階予定。

また、ベトナム出身の二



トオワン神学生

「滞日外国人との共生、共働」の中で、今後の目標として掲げられた課題は「子供達の信仰教育」でした。荒れすぎた現代の日本の社会の中で、どのように子供達が育つべきか、という言葉を

供達の信仰を育てていったら良いのでしょうか。外国籍の子供達だけではありません。幸い十一月二十三日の広島教区代表者会議に向けてのQ&Aの中に「現在地の確認(知る)」という言葉がありました。どうぞ現状を知ろうとなさる時に、益々増えて止まない外国籍の方たちをお忘れにならないで下さい。私たちは、彼等のお陰で、彼等は私たちのお陰で生きていくことを!!

二月八日の中国新聞備後版によれば、国が福山市の六団体の申請を受ければ、一年間に外国人研修生(特にアジア諸国)が約二百五十人増える、と。現在も常石造船関連会社にフィリピン人の若者約二百人、鑄造会社関連組合にインドネシア人約二百人、日本人と結婚したフィリピン人助成とエリターナーの男女を合わせれば五百人ものフィリピン人の方たちがこの私に住んでいる福山にはおられます。また、大変ホットなニュースですが、日本人信徒総数・四十四万九千九百二十五人に対し、外国人信徒総数(推計)・五十六万五千七百十二人になりました。因みに、二〇〇一年の広島教区大会の時の広島教

区内信徒割合は六十%に四十%でしたが、今五十五%に対し外国籍が四十五%になってきました。現実問題として、生活の中でどのようにしたらこの人たちが神の子としての苦業を共有できるのでしょうか?十一月の代表者会議に向けて、このような事について共に考えられたらいいな、と思います。

ともに祈る集いへのお誘い
対象 二十五歳位迄の未婚女性
場所 愛媛カルメル会管区本部修練院
〒655-0100三原
神戸市東灘区西宮が丘七-四-四
TEL:078-777-7773
と き 二〇〇五年四月二十九日(金)午後
二時から三時(主)午後四時半迄
費用 一〇〇〇円
持参品 洗面具、筆記用具
4月25日迄申込みして下さい。(Sr.中村)

どんな教区よその教区⑭
鹿 児 島 教 区

記念の年に小教区の活性化を祈る

鹿児島教区は、鹿児島県だけを区域とし、信者数が2003年12月現在で、9,527人、小教区数は29です。巡回教会が多く、奄美大島や徳之島などに42の巡回教会があります。

今年、司教区に昇格して50周年を迎えました。この記念行事の一つとして、聖体の年にあわせ、全小教区で聖体礼拝のリレーを行っています。主日ごとに、聖体礼拝を担当する小教区を決め、「小教区の活性化と教区の本化」を教区の意向として祈ります。礼拝を終えた教会は、参加者がその思いを自由に綴った記念ノートを送ります。2月から9月にかけて鹿児島本上から沖永良部島(おきのえらぶじま)まで旅をしたノートを、9月19日の記念ミサで奉納します。また、このミサの中で、教区として初めて終身助祭を二名叙階する予定です。

現在、教区として小教区の活性化に取り組んでいます。昨年、小教区の代表者が集まって教区評議会が開かれましたが、テーマは「交流・養成・秘跡—宣教する小教区になるために—」でした。神離れ現象である世俗化の波を教会も受けています。教勢の伸び悩み、ミサ参加者の減少、極めてわずかな司祭・修道者の召命…。このような状況を乗り越えるため、糸永真一司教は小教区の活性化とカテケージス(要理教育)の充実を教区民に訴えています。小教区の活性化のためには、基礎共同体である班制度の充実。この制度は1980年代から始まりました。カテケージスについての最近の取り組みについては、2003年に設置したカリキュラム委員会がカテキスタの養成などに取り組んでいます。思うように進んでいません。

聖体の年の恵みを豊かに活かすことができるように祈りたいと思います。

(鹿児島教区広報部長 末吉卓也神父)

ひまわり



〈45〉

まだ薄暗く人通りもな
い朝、みぞれ混じりの凍
てつく風の中、車を走ら
せ目的地へと急ぐ。冷凍
庫のような車内、ようや
く暖まってきた頃、車は



北国(北アイルランド)の おもいで

下松教会担当

松村信也神父

(イエズス会)

目的地に到着する。その頃、
みぞれもあがり風もおさま
り、つかの間の青空と太陽
が顔をだす。思わず全身が
「春よ来い、早く来い」と
叫ぶ。今年ももうすぐ主の
ご復活を迎える。早めのご
復活祭は、自然の復活と重
なり、ご復活の喜びをさら
に大きくしてくれる。
ついこの間まで、逆さ箒
のオンパレードだった街路

樹、やつと新芽が上から顔
を出したラッパ水仙。いつ
のまにか小さな芽が、人知
れずいつせいに噴出し、大
空に向かってラッパを吹き
鳴らす。
初々しい木々の芽、咲き
乱れるラッパ水仙の花は、
甘い香りを漂わせ、新しい
生の誕生を行き交う人に告
げ知らせる。
この新しい生の誕生こそ、
正真正銘の復活であること
を体が感じる。あのモノト
ーンの冬の世界から、カラ
フルで華やかで、そして柔
らかでやさしい春の訪れ、

それらの根源に主のご復
活がある。神は、主のご
復活祭を地上のすべてで、
その真の喜びを生きとし
生けるものへ告げ知らせ
る。
大自然の中に生まれた
新たな命を今年も戴く、
その新たな命で、新たな
心で、新たな世界へと躍
動するよう神は、自然を
通して教授する。「神の
計らいは限りなく、生涯
わたしはその中にいきる」、
否、「生かされている」と。
この日、この時、この瞬間、
全身が喜びで満たされる。

風紋

教区代表者会議は、小教
区での準備過程が大事であ
り、その意味で代表者会議
はすでに始まっているとい
う。準備が進まない小教区
もその現実と状況を大切に
受け止め、そこからの福音
宣教を考えて行ければよい
のではないだろうか。(き)

テゼ・ケルン 世界青年出合いの旅 2005 WYD ケルン大会

この夏、テゼとケルンで出会おう!!

世界中からの青年たちと。

見つけよう 喜びと希望の源泉(みなもと)。

伝えよう 平和と調和の未来を。



8月10日(水)～8月25日(日)〈16日間〉

対象：18～35歳

旅費：25万円

引率者：プロット神父、アレックス神父、シスター

申し込み〆切：5月8日(日)

問合せ先と申し込み先：細江カトリック教会

〒750-0016 山口県下関市細江町1-9-15

E-mail: valcx@ymg.urban.ne.jp

Tel: 0832-22-2294



なかなかなるじゃん大学生
三月七日から九日、岡山
カトリックセンターで広島

教区大学生大会が開催さ
れ、差別、教育、人間関係、
平和環境などのテーマで分
かち合いが行われた。
九名のカトリック大学生
が声をかけて誘った洗礼を
受けていない二十二名の大
学生も、最初は教会や宗教
に偏見があったが、すぐに
打ち解けて、祈りにも積極
的に参加してくれた。

日韓学生交流会に参加して

二月十二日から十八日ま

での韓国での交流会。二泊
三日のホームステイでは、
会話はほとんど身振り手振
りの英語で疲れました。し
かし、韓国料理を食べ、い
ろんなところを観て、楽し
い三日間でした。

合宿の三日目に、韓国の
老人ホームへ行きました。
おばあちゃんたちとカラオ
ケで歌い、踊った後、ミサ
の終わりに澤野神父が日本
の過去の過ちを謝罪しまし
た。澤野神父が「赦してく
れますか?」と尋ねると、
おばあちゃんたちは声をそ
ろえて「ネー(はい)」と
言ってくれました。その言
葉を聞いたときおもしろく
涙が出そうになりました。